

# 創業85年の実績 容器・包材の総合商社

## 小林容器株式会社

小林容器株式会社は、1941年より大手乳製品メーカーの空堀回収業から始まり、1951年に法人化。食品用途をはじめ、医療品やコスメティック、工業用途まで、さまざまな容器を開発・販売するトータルパッケージの総合商社として、2026年9月には創業85周年を迎えます。

PETボトルに関しては、リサイクルが本格化された1993年に大型ボトル、容器包装リサイクル法が適用された1997年より小型ボトルの取り扱いを開始。プリフォームを製造する会社や、ベール化する中間処理業者などをグループ関係会社に持ち、循環型社会に向けた商品づくりでもその実績を重ねてきました。



自社で販売する容器を利用し商品化

### トータルパッケージ・ソリューション 価値を包み、魅力を届ける

小林容器株式会社は、素材選びや形状・機能設計だけでなく、箱詰め、発送までを考慮したパッケージを提案する企業です。良い商品であっても、必ず売れるとは限りません。容器や包装材は、その材質や形状により、保存期間や耐久性、さらには物流コストも変わってきます。手に取ってみたいくなる、買ってみたいくなる。パッケージには、その魅力や心配りを伝える義務があると考えています。

トータルパッケージの仕組みとして、素材選定や成形(プリフォーム)から実際の充填工程や梱包、物流に関する相談までワンストップで対応するため、複数の業者調整にとまなう手間や納期、品質などへの懸念を軽減できます。また、過去の事例に準じた試作などから、売れる商品づくりのアイデアを提案。例えば、乳製品メーカーの容器は現在、プラスチック製となっていますが、当社にはその開発に参画して得たノウハウがあります。そして量産・出荷に至る実務支援、製品化までの実績に基づいた課題解決においても、強みを発揮できます。

より軽く、より強く。PETボトルは、形状の改善や減量化が進んでおり、トレンドを見逃すことはできません。循環型社会の実現に向けて、リサイクル技術も進歩し、リサイクル率も年々高くなっています。当社では飲料用、調味料用など、小ロットから大ロットまで、幅広く対応しています。また「耐熱・耐圧・耐熱圧」タイプ、「角形・丸形・他角形」タイプについても各サイズを取り扱っています。もちろん、特注品や新型の

開発、機能性・用途に合わせたキャップ、PET素材の包装材・ラベルなど、多様なニーズに応えるべく、これまで技術を磨いてきました。

### 消費ではなく循環へ、「未来」へ向けた活動

当社は2024年9月、10月のNPBクライマックス・シリーズにて、東京ドームへの広告を出稿しました。目を引くバックネットに広告があったため、TVや新聞で見た取引先などからの反響も上々で、初見の方にも知っていただける良い機会となりました。

また、環境への取り組みとして、FSC(Forest Stewardship Council:森林管理協議会)のCoC認証を取得。FSC認証は環境、社会、経済の便益に適切、管理された森林からの生産物や、その他リスクの低い林産物を使用した製品を目に見える形で消費者にお届けする仕組みとなっています。

カーボンニュートラルへの第一歩として、年々「容器包装廃棄物」の減量化、再資源化は急務となっています。資源をただ消費するのではなく、4R(Reduce、Reuse、Recycle、Renewable)の活動によって循環させていくサーキュラーエコノミーの実現は、容器の総合商社である当社こそが推進すべく努めであると考え、今後も積極的に取り組んでいきたいと思っています。

(取材日：2026年2月18日)

専務取締役 滝澤 聡  
取締役 営業本部長 織茂 良紀



織茂取締役

### 小林容器株式会社

住所：東京都新宿区早稲田鶴巻町549-5  
創立：1941(昭和16)年  
設立：1959(昭和34)年  
従業員数：25名  
URL：<https://kobayashi-youki.co.jp>

